

平成 27 年 1 月定例会

# 教育委員会定例会会議録

書記 伊 東 英 二

書記 鈴 木 和 賀 子

## 塩竈市教育委員会定例会会議録

◆日 時 平成 27 年 1 月 23 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 15 分

◆場 所 壺番館 3 階共用会議室

### ◆出席委員

委 員 長	柴田 仁市郎	委員長職務代行者	太田 忍
委 員	池野 暢子	委 員	山田 達磨
教 育 長	高橋 睦麿		

### ◆事務局

教 育 部 長	菅原 靖彦	教育総務課長	会澤 ゆりみ
生涯学習課長	渡辺 常幸	学校教育課長	高橋 義孝
市民交流センター館長	本田 幹枝	教育総務課長補佐兼総務係長	伊東 英二
教育総務課専門主査	鈴木 和賀子		

### ◆定例会次第

- 1 開会
- 2 前回会議録承認
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 議案
  - ① 議案第 1 号 塩竈市教育委員会公印規則の一部を改正する規則
- 5 教育長報告
  - ① 第 6 回管内教育長会議について
- 6 教育部長報告
  - ① 塩竈市震災復興計画の関連事業等について
- 7 その他報告
  - ① 県立利府支援学校の分教室設置に伴う対応について
  - ② いじめ防止に向けた新たな取組について
  - ③ 平成 27 年塩竈市成人式について
  - ④ 平成 29 年度高等学校総合体育大会（南東北インターハイ）について
- 8 閉会

## 1 開会

午後 1 時 30 分

## 2 前回会議録委員の署名

山田委員から報告、承認

## 3 会議録署名委員の指名

太田委員と高橋教育長を指名

## 4 議案

(1) 渡辺生涯学習課長から、以下のことについて報告

① 議案第 1 号 塩竈市教育委員会公印規則の一部を改正する規則  
(委員全員異議なし) 原案のとおり可決

[主な質疑]

なし

## 5 教育長報告

(1) 高橋教育長から、以下のことについて報告

① 第 6 回管内教育長会議について

[主な質疑]

・ 柴田委員長

インターハイの競技種目の割振はどのようにして決まるのか。

・ 渡辺生涯学習課長

平成 22 年度の沖縄県でのインターハイを最後に 1 県での単独開催は終了した。それ以降は、複数県で地域ごとに開催する方式となった。今回は、南東北、宮城県・山形県・福島県の 3 県での開催となった。前回、塩竈市で行われたバトミントンは、今回、山形県で開催される。

各県に割振された種目の中で、自治体で保有するグラウンドや体育館等の状況に合わせて宮城県が調整している。塩竈市は、今回、少林寺拳法の会場となっており、塩釜高校が県内でも優秀な成績を収め、毎回全国大会にも出場しているという経過もある。

・ 高橋教育長

塩釜高校の少林寺拳法の顧問の先生は、少林寺拳法の実力のある女性の先生で、今回、インターハイの実行委員会を立ち上げた中でも中心となって下さっている。

・ 山田委員

前回の宮城県でのインターハイの開催時には、宿泊施設の関係で民泊の制度があったかと思うが、今回もあるのか。

・ 渡辺生涯学習課長

今回は、宮城県が中心となって旅行会社を通した対応となっている。しかし、塩竈に宿泊していただくような声掛けは行いたいと考えている。

・山田委員

みやぎっ子「るるぶる」というのは、どのような取組か。

・高橋教育長

子どもたちの基本的な生活習慣の定着を促進するための取組である。「しっかりねる」「きちんと食べる」「よくあそぶ」「すこやかにのびる」でみやぎっ子「るるぶる」という活動です。

## 6 教育部長報告

(1) 菅原教育部長から、以下のことについて報告

① 塩竈市震災復興計画の関連事業等について

〔主な質疑〕

なし

## 7 その他の報告

(1) 会澤教育総務課長から、以下のことについて報告

① 県立利府支援学校の分教室設置に伴う対応について

〔主な質疑〕

・柴田委員長

教育委員会としての方針や役割をどう考えているか。

・高橋教育長

富谷の富ヶ丘小学校の支援学校の分教室を視察し、課題・取組・留意点について聞き取り調査をしてきた。

プラス面としては、インクルーシブ教育が推し進められている現在において、健常者と障害者が、日常的な教育活動で学ぶことができるという点がある。また、受け入れるための様々な施設整備についても宮城県の費用で図られるということもある。

しかし、障害者と共に生きていくということ、子どもたちから肌で感じるというのが一番のメリットだと感じてきた。

先日、市長と宮城県の特別支援室長が、市として受け入れる方向にあるのかということ話し合う機会があった。市長からは、今後、市の方針としても、インクルーシブ教育推進の方向を目指していくべき時に来ているとの観点から、受入を推し進めるとのことでしたので、教育委員会としても具体的な取組に着手しようとしているところである。

・池野委員

要支援の児童のみのクラスをいくつか作るということですか。

・高橋教育長

塩竈・七ヶ浜・松島の小学部の子どものみを受け入れてほしいということだった。最終的には約30名の子どもたちが学ぶことになる予定だが、はじめから30名が学ぶのではなく、入学した子どもから順に児童が断続的に増えていくということになるそうである。

現在は、非常に利府支援学校が手狭で、校庭も使えず運動会もグランディなどを借りているようである。富ヶ丘小学校では、プールや校庭も利用でき、教育環境としては改善されたとのことである。しかし、給食を刻み食にしたり、職員室と調理室が一緒になっていたり、かなり手狭な印象は受けた。

富谷町の場合は、町から分教室の設置の要請をしたようである。塩竈市の場合には、具体的には、集団で運動をするための部屋やシャワー一室などを含め5～8教室を借りたいとの要請がある。

・太田委員

健常者の中に、障害者が入るという形ではないのか。

・高橋教育長

支援学校は、県立学校なので、同じ建物の中で二つの学校としてブロックを分けることになる。富谷町の場合には、昇降口も分かれている。

・柴田委員長

少子化が進んでいるのに、要支援児童が増えているのはどういうことなのか。要支援の枠が広がっているのか。

・高橋教育長

要支援児を確認、特定できる体制が体系化されてきたということもあると思う。

・池野委員

産科的な要因もあるかと思う。最近、高齢妊娠がふえて障害をもって生まれる比率や、早産率、不妊症の治療による多胎妊娠なども増えており、そのようなことも底辺にはあるかとも思う。

高齢になるほど染色体異常の頻度が高くなる。少し前は、35歳以上は高齢出産といわれていたが、今は40歳過ぎてからの妊娠出産もかなり増えてきている。

・太田委員

障害についても多様化しており、高齢者や成人に対する支援は比較的制度化されているが、生まれて間もない子どもへの支援、援助が薄いように感じる。

・柴田委員長

障害を持っている子どもと健常児と一緒に共生し学んでいくというのは、とてもよいと思う。将来的にノーマライゼーションの社会を学ばせるという意味では教育に必要なことかと思う。

・高橋教育長

インクルーシブ教育については、もともと宮城県で唱えていた「共に学ぶ教育」がモデルとなっている。

・山田委員

富谷町での課題、問題点があったと思うが、塩竈市でも課題点などを想定しないと後になってトラブルを招くことを考えられる。現時点で想定される課題等はあるか。

・高橋教育長

受入側の先生方、PTAの方々、地域の方々の不安、課題意識が大きいかと思われるので、説明会の開催を予定している。宮城県の特別支援室の情報によれば、問題提起されたのは、職員の増加による駐車場問題や、通学時間が登校時はずれるので心配がないのだが、帰る時間が一緒になるため交通安全の対策が必要となること、校内の授業のチャイムの時間が異なること、給食については、現在も親子給食方式をとっており負担も大きいところ、さらに補助食等を用意するのかどうか等様々心配されていた。

今後については、議会へ説明し、その後各関係の方々に十分な説明をして理解を得られるようにしていきたい。

(2)高橋学校教育課長から、以下のことについて報告

① いじめ防止に向けた新たな取組について

〔主な質疑〕

なし

(3)渡辺生涯教育課長から、以下のことについて報告

① 平成27年塩竈市成人式について

② 平成29年度高等学校総合体育大会（南東北インターハイ）について

〔主な質疑〕

なし

8 閉会

午後2時00分

《會議録署名委員》

2 番委員

(太田委員)

5 番委員

(高橋教育長)